

折に触れ 四字熟語

NO. 263 〔狷介孤高〕 けんかい ここう

< 意味 > 自分の意志をかたくなに守って、他と協調しないさま。

表 言 : 狷介孤高の人

用 例 : 彼にはそういう面影もない。むしろ遊里と市井に放浪した狷介孤高な無頼漢と云った風がある。< 亀井勝一郎・美術遍歴 >

語 釈 : 「狷介」は自分を固く守って妥協しないさま。「孤高」は世俗から離れて超然としているさま。

一 言 : 川本三郎著のエッセイ集「ひとり遊びぞ我はまされる」を読んでいると、盛んに永井荷風の「断腸亭日乗」が引用されていて、その中で荷風のことを狷介孤高の人と評しています。孤高は私の憧れているところではありますが、狷介はとても私にはできることではありません。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」